

人と地域を生かした道德教育講座

研究主題

「生き生きと学校生活を送り、心豊かでたくましい生徒の育成」
— 家庭・地域と連携し、豊かな心を育み、お互いを高めあえる集団をめざして—

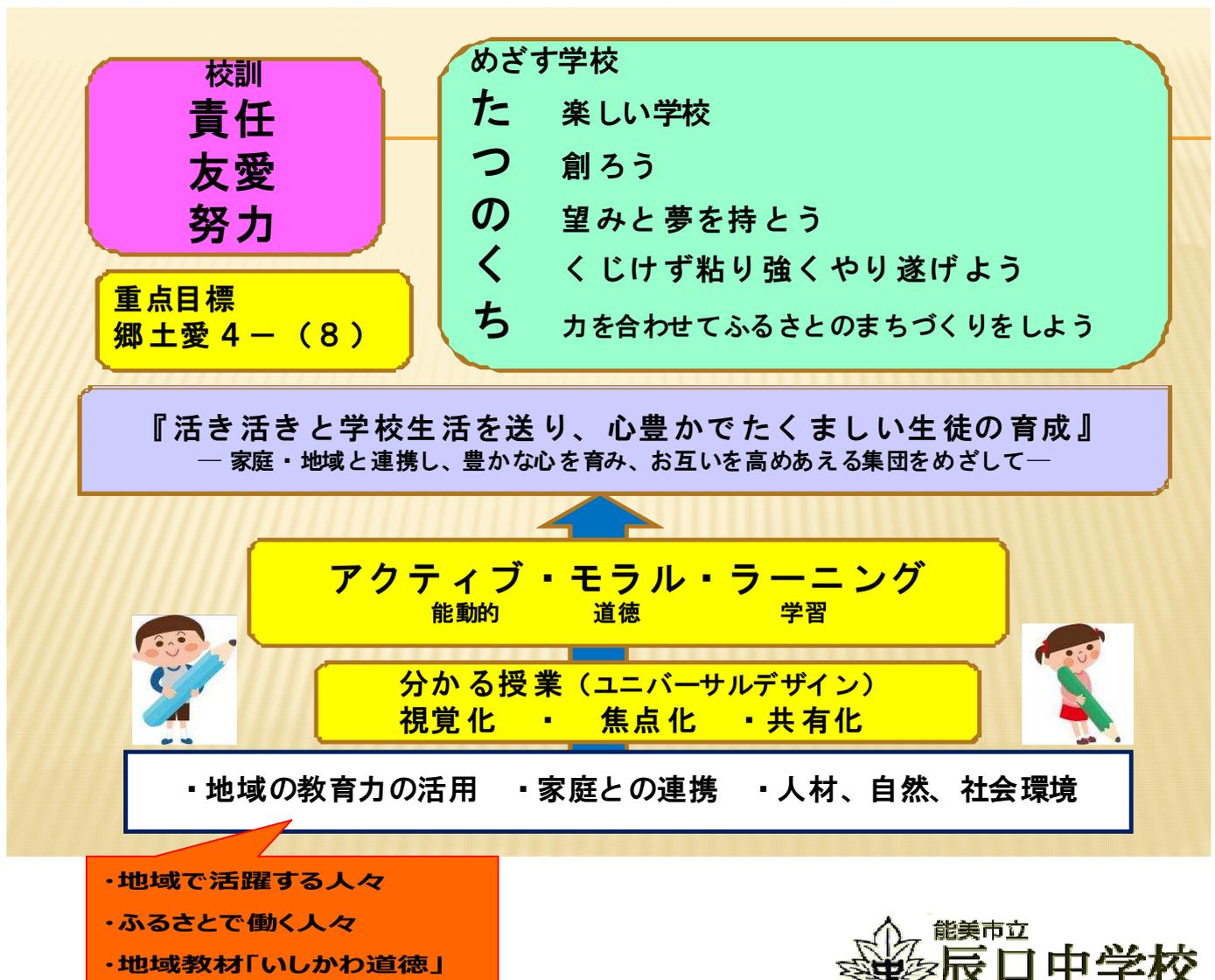
研究のねらい

- 他者の多様な考えを感じ取り、自他の尊さを受け止めていく。
- 自分の考えを他者に伝えたり、主張したりする力を高める。
- ふるさとや自分の町を愛する気持ちを育む。



自分の力で考え、判断し、よりよく生きていこうとする。

研究構想図



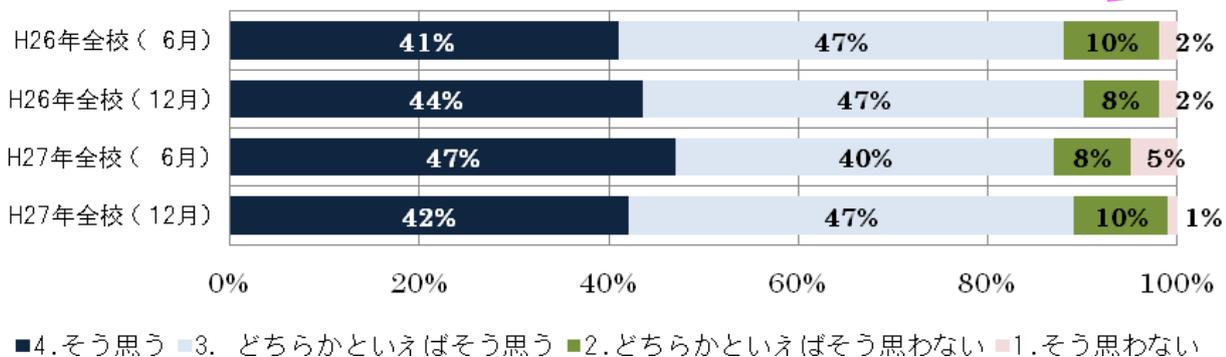
◇成果

- ・教師同士が道徳について情報交換する機会が増え、学校全体で道徳教育を進めていくことができた。
- ・中心発問や生徒に考えをもたせるための工夫により、自分の考えをもち、伝えられるようになった生徒が増えた。
- ・地域人材にゲストティーチャーとして参加してもらうことで、より心に響く道徳となった。
- ・アンケートの結果より、「人の役に立ちたい」と思う生徒の増加が見られた。道徳的実践力を身につけるといって、様々な取り組みの成果が表れたと言える。
- ・学校・家庭・地域の三者が道徳に対する共通理解を図ることができた。

生徒アンケートより

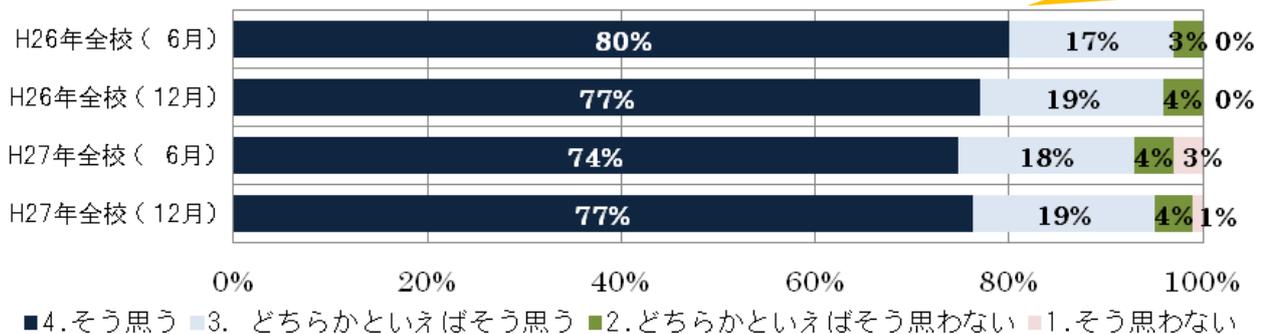
地域や専門の方との交流で、「学習が更に深まった」「新しいことを学ぶことができた」と実感した生徒が増えた。

30 地域の人や専門家が来て教えてくれることは好きですか



65 人の役に立つ人間になりたいと思う

アンケート結果より「人の役に立つ人間になりたい」と併せて「人の気持ちがわかる人間になりたい」と思う生徒も増えた。



◇課題

- ・多様な考えを引き出し、ねらいに迫るために
 - ① 生徒が「考えをもち」から「表現する」、「話し合う」につながるよう、指導方法を工夫し、実践する。
 - ② ねらいに迫るための中心発問を工夫するため、教材研究、資料分析の充実を図る。
 - ③ 生徒の思考の流れや変化がわかる構造的な板書を意識し、工夫する。
- ・今日的課題や答えが1つではない、多様な考えが生徒から出てくる資料等を用いての「考える道徳、話し合う道徳」の授業に取り組む。

- ◇考える道徳・話し合う道徳
教師による講義型授業から
生徒主体の能動的授業へ
- ◇話型モデルの作成
他生徒と意見と考えを共有
⇒学習内容を深める



話型モデル

学び合おう
班活動をしたら、自分の意見を発表しよう。
僕・私たちの班では、
○○という意見が出ました。

↓

「私もどう思いました。(同じ意見)
は私は、初めは、○○だと考えていましたが、ほかの人の意見聞いて、どうだと思いました。(違う→同じ意見)
は私もどう思ったし、さらに○○だと思いました。(付足し)
しかし、私は○○な考えもあると思いました。(違う意見)」

- ◇他教科とのリンク
総合的な学習の時間
1年『輝き人から話を聞こう』
2年『ふる里学習』
3年『地域在住の外国人から学ぼう』



地元で活躍している方、地域在住の方を迎えて

自分の考えを他者に伝えたり、主張する力を高める。

他者の多様な考えを感じ取り、自他の尊さを受け止めていく。



目指す生徒の姿：自分の力で考え、判断し、よりよく生きる

教師の授業力を高める。

- ◇生徒自らが体験する活動・自ら学ぶボランティア活動



(赤い羽根募金)



(清掃ボランティア)



(青い鯉のぼりPJ～東北大震災支援事業～)



(田植え体験)



(開上ひまわりPJ)



(ひまわりの種を配布)



道徳的实践力を育成する。

ふるさとや自分の町を愛する気持ちを育む。

読み物教材が本物で
より切実なものに…

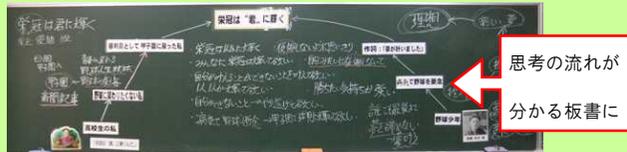
- ◇校内研修の充実

- ・講師招聘
(講義、指導案検討会、研究授業、WS型授業協議会など計4回)



- ◇道徳の授業の充実

- ・思考課題と発問の吟味
- ・構造的な板書の工夫
- ・学習形態の工夫 (個人で考える、集団で考える)



思考の流れが
分かる板書に

- ◇生徒アンケートの実施

- ・生徒の意識調査、実態把握



- ◇地域の特色を生かした教材の活用

- ・ゲストティーチャー、
「いしかわ版道徳教材・映像資料」の活用



- ◇家庭や地域との相互連携

- ・保護者や地域人材参加型の
公開授業、授業整理会

- ◇道徳通信

- ・月1回、保護者や地域に向けて発行
- ・学期に1回、職員向けの通信も発行



- ◇学校研究の公開(本校ホームページ)